



第18回 リトアニア共和国



増永梨奈さん

埼玉県にゆかりがあり、現在県内や海外で活躍している方に出身国や現在暮らしている国を紹介していただくシリーズ「世界の国からこんにちは!」。今回は、2019年度「埼玉発世界行き」奨学生として、ヴィリニウス大学に留学していた増永梨奈さんが、留学先の「リトアニア共和国」を紹介します。

リトアニアって??

リトアニアはバルト三国のなかで最も南にある国で、首都ヴィリニウスは中世の旧市街で知られ、街全体が世界遺産に登録されています。古い教会や塔、お城、旧ソ連時代の建物が多く現存しています。

第二次世界大戦中の1940年にリトアニアに駐在していた日本の杉原千畝領事代理は、当時ナチスドイツの迫害を受けていたユダヤ人に日本の通過ビザを発行し、6500名以上の人々の命を救いました。現在その子孫は25万人とも言われており、「命のビザ」とも呼ばれる功績を残しました。カウナスには当時の領事館がそのまま杉原記念館として保存されています。

親日国として知られており、日本食のお店や居酒屋、大学には日本語学科があるところもあります。『Now Japan』というイベントが開催されたりと親日ぶりが窺え、うれしいです。



ヴィリニウスの街なみ

マーケット&フェスティバル

ヴィリニウスのメインストリートでは、頻繁にイベントが開催されます。地元の子供たちの発表会が行われていたり、名産品や土産物などを売る市場がずらりと並んでいます。

そして毎年12月になるとクリスマスマーケットが開催されます。大聖堂の前にそびえ立つクリスマスツリー。実はヨーロッパで最も美しいツリーに選ばれているんです。このクリスマスツリーには、樹木の健全な発育を助けるために伐採された、間伐材のみが使用されており、森や自然にも配慮されています。ホットワインや伝統料理とともに過ごすクリスマスは最高です。



ヴィリニウスのメインストリート



クリスマスツリー



右がキビナイ



ピンクスープ

おすすめフード&観光地

ピンクスープとして知られるビーツのスープや、羊肉のひき肉がパン生地に詰まったキビナイ、もちもちとしたジャガイモの中にひき肉が入っており上にかけてられるクリームとの相性抜群のツェペリナイなど日本人の口にもよく合うフードがたくさんあります。リトアニアを訪れた際には、ぜひ食べていただきたいです。

私が留学していたヴィリニウス大学はおすすめスポットの一つです。大学が世界遺産であり、その姿は学校とは思えないほど壮大です。大学の展望台からは、旧市街全体が見渡せます。学生だけでなく一般の方も入場可能です。また、トラカイやクライペダ、カウナスなどバスで行ける観光地もおすすめです。

日本ではあまり知られていないですが、人も街もフードも素敵な国です。日本とのかかわりも深いので、多くの人にリトアニアの魅力を知ってもらいたいです。



ヴィリニウス大学

令和2年度

彩の国さいたま国際協力基金の助成団体は、特集で活動を紹介した3つの団体を含め6団体が決定しました。



番号	団体名	所在地	事業名	対象国	申請額
県内協力事業					
1	特定非営利活動法人 街のひろば	入間郡三芳町	子供の日本語教材作成	日本	¥200,000
海外協力事業					
1	一般社団法人 シェア・ザ・プラネット	川越市	バングラデシュ北東部大湿地帯災害リスク軽減 農業の普及	バングラデシュ	¥500,000
2	特定非営利活動法人 エクアドルの子どもたちのための友人の会(SANE)	飯能市	エクアドル共和国ピチンチャ県カヤンベ市の学校給食実施のための学校菜園と調理室の設備改善事業	エクアドル	¥119,000
3	特定非営利法人 NGOクワトロ	さいたま市	ラオス南部パクセにおける高校進学援助のための寄宿舎(坂雲寮)運営事業	ラオス	¥500,000
4	TCP チベタン・チルドレンズ・プロジェクト	さいたま市	ネパール国におけるコロナウイルスによる経済的困窮家庭の子供の新規引取りおよび在籍児童の養育事業	ネパール	¥500,000
5	埼玉・タイ王国 友好協会	川越市	タイ王国北部 山岳民族学校への保健室建設事業	タイ	¥500,000

GGGからのお知らせ

埼玉県グローバル人材向けインターンシップ事業

留学生が仕事体験!

埼玉県では、留学経験のある日本人学生及び外国人留学生が、将来、グローバル社会で活躍するために必要な「実践力」を養うため、企業や団体における一定期間の就業体験を行うインターンシップ事業を行っています。

今回、インターンシップ生を受け入れている県内企業・団体のうち、ふじみの国際交流センターを訪問し、インターンシップの現場取材しました。

ホームページやSNSなどの改善の提案をする小島さん▶



◀左から、インターンシップ生の稲垣さん、王さん、小島さん

インターンシップ先 ふじみの国際交流センター(ふじみ野市)

ふじみの国際交流センターは、埼玉県指定・認定特定非営利活動法人で、富士見市・ふじみ野市・三芳町を中心に、地域で暮らす外国籍の人々への協力・支援、及びそれぞれの共生に向けて活動している団体です。

インターンシップ内容 テーマ:「多文化共生に向けた広報」

現在の広報活動(HP、インスタグラム、FB、多言語情報誌)の問題点を見つけ、改善のための提案をし、実践する。

インターンシップ生

稲垣 千尋さん(大学3年)

ふじみの国際交流センターの行っている広報活動に対して、大学生の視点でのアドバイスをいたしました。日本に住む外国人の実情を知らなかったことに気づき、その現状と課題に対して、自分がいま大学生として何ができるか、将来社会人になって何ができるかを考えるきっかけとなりました。

小島 早恵さん(大学院2年)

営利団体との違いや新しい広報の方法について知りたいと思い参加しました。今まで学んできたことは、マジョリティである日本人のための公的機関の経営や、イタリアに住むイタリア国籍の方のマジョリティのニーズでした。ここでは日本に住む外国人というマイノリティに触れることができ、今後のキャリアにも役立つと思いました。

王 則堯さん(大学3年) 出身国:中国

在日外国人をどうやってサポートしているか知りたいと思い参加しました。自分も外国人留学生の一人。日本に来て日本語学校や大学しか頼りにできることはありませんでした。こういう団体を初めて知り、ビザの手続きやごみの出し方など自分も直面した問題だったので、親切に外国人をサポートされていることに感動し、感謝しました。

インターンシップ担当者

就職につながるインターンシップではないので、何を学生に持って帰ってもらうかを色々考え準備しました。

地域にいる外国人の実情を生で見てもらいたいと思い、日本語教室で勉強する方々の様子を見てもらったり、理事長にこの地域に住む外国人話をしてもらったりしました。本やインターネットでは学べないことを実際に感じてもらえたらうれしいです。